

Nano Banana 2.1 vs GPT Image 2.5：知財実務における次世代画像生成AI比較

2026年秋投入、高度なコンテキスト理解と編集精度を備えた次世代モデル。推論・知識統合に強みを持つBananaと、局所編集・デザイン制作に優れたGPTの特性を理解し、知財業務へ安全に適用するための比較ガイド。

Nano Banana 2.1 (Google)

推論・検索連携 (Banana)

Bananaは長文理解と検索力に優れる。



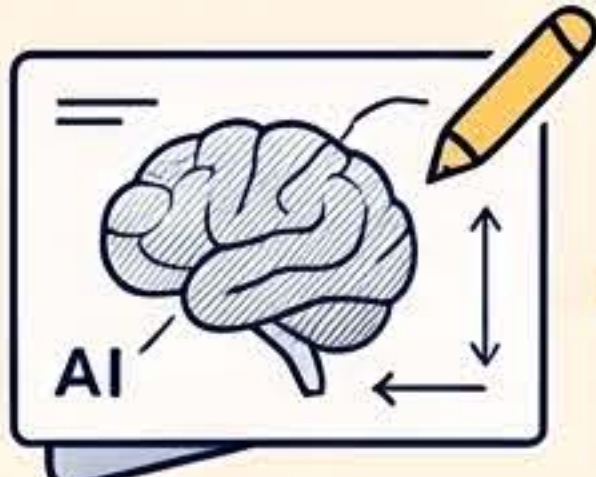
複数参照と一貫性維持の機能差



被写体固定

AI画像は「中間プロトタイプ」
として活用

厳密な特許・意匠図面化にはCADや
ベクター変換ツールとの連携が必須。

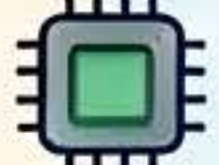


AI スケッチ



ベクター変換ツール

コア仕様・技術性能の対比

Nano Banana 2.1 (Google)	評価項目	GPT Image 2.5 (OpenAI)
Gemini 3.6 Flashネイティブ	 アーキテクチャ	Flare (高速) / Sunburst (高精度)
Thinkingモード / Webリアルタイム検索	 /  主な強み	ネイティブ透過背景出力 / Sketch機能
最大14枚 (被写体4体/物体10個)	 参照画像上限	最大16枚 (局所変形・ドリフトを抑制)

GPT Image 2.5 (OpenAI)

高精細編集・透過 (GPT)

GPTはアルファ透過と質感描画に優れる。



複数参照と一貫性維持の機能差



ドリフト防止

知財実務への適用とガバナンス戦略



エンタープライズAPI

秘密保持のためのZDR・法人契約の徹底

未公開發明の流出を防ぐため、再学習のない
エンタープライズAPIを利用する。